

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	ES270 Concentrated Multi-purpose Cleaner
会社名	ジェイン プロダクツ (Jayne Products Inc)
住所	17904 South Star of India Lane Carson, CA 90746, USA
電話番号	(310) 715-3070
緊急時の連絡先	株式会社アジアトレーディングコーポレーション 東京都新宿区下落合1-3-22 TEL 03-5332-9123 FAX 03-5332-9070
担当者	鈴木
推奨用途及び使用上の制限	洗剤等

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分4
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過氧化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類対象外
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺	区分2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器・全身毒性(反復)	区分外

環境に対する有害性

吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語

危険有害性情報

警告
可燃性液体
眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
眠気及びめまいのおそれ



注意書き

【安全対策】

炎及び高温のものから遠ざけること。
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

【応急措置】

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息
気分の悪いときは、医師に連絡すること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託す

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分
成分

混合物

化学名又は一般名	CAS
メチル シプロピレン	34590-94-8
ポリオキシエチレンアルキルエーテル(C=11)	
トールオイル脂肪酸石鹼	
エチレンジアミン4酢酸ナトリウム塩	1964/2/8
水	7732-18-5

4. 応急措置

吸入した場合

吸入者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚を速やかに洗浄すること。
多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状

早急に口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

吸入: 咳、めまい、し眠、中枢神経に影響を与え、昏迷を生じる。

皮膚: 乾燥、吸収される可能性がある。

眼: 痛み、発赤。

経口摂取: 「吸入」の項参照

最も重要な兆候及び症状

応急措置をする者の保護

医師に対する特別注意事項

救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

情報なし

5. 火災時の措置

消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および全ての着火源を取り除く。

緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和

不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

局所排気・全体換気

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

<p>安全取扱い注意事項</p> <p>保管</p> <p>接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件 容器包装材料</p>	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。 飲み込みを避けること。 眼に入れないこと。 皮膚と接触しないこと。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照 消防法に従う。 『10. 安定性及び反応性』を参照 日光の直射を避け、通気の良いところに保管する。 消防法で規定されている容器を使用する。</p>
8. ばく露防止及び保護措置	
<p>管理濃度 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標) 日本産衛学会(2005年版) ACGIH(2005年版)</p> <p>設備対策</p> <p>保護具 呼吸器の保護具</p> <p>手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具 衛生対策</p>	<p>未設定</p> <p>未設定 TLV-TWA 100ppm(skin):メチル ジブロピレン TLV-STEL 150ppm(skin):メチル ジブロピレン</p> <p>この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 適切な呼吸器保護具を着用すること。</p> <p>適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
9. 物理的及び化学的性質	
<p>物理的 形状 状態</p> <p>色 臭い pH</p> <p>沸点、初留点及び沸騰範囲 引火点 自然発火温度 燃焼性(固体、ガス) 爆発範囲 蒸気圧 蒸気密度 蒸発速度(酢酸ブチル=1) 比重(密度) 溶解度 オクタノール・水分係数 分解温度 粘度 粉じん爆発下限濃度 最小発火エネルギー 体積抵抗率(導電率)</p>	<p>液体</p> <p>琥珀色 軽微 10.0±0.5 100°C (760mmHg) >93°C (TCCにより計測) データなし データなし データなし データなし データなし データなし 1.013g/cm³ (20°C) 水に易溶 データなし データなし データなし データなし データなし データなし</p>
10. 安定性及び反応性	
<p>安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物</p>	<p>通常の手取扱い条件においては安定。 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 データなし 強酸化剤 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などを発生する。</p>
11. 有害性情報	
<p>急性毒 経口 性</p> <p>経皮</p> <p>吸入</p> <p>皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・刺激性 呼吸器感作性又は皮膚感作性</p>	<p>ラットLD50値が、5350mg/kg (ACGIH 7th(2001):メチル ジブロピレン)に基づき、区分外とした。</p> <p>ウサギLD50値が、9500mg/kg (ACGIH 7th(2001),SIDS(2001):メチル ジブロピレン)に基づき、区分外とした。 吸入(蒸気): データなし 吸入(粉じん): データなし データなし</p> <p>ウサギの試験において、軽度の角膜刺激性が認められた記述 (ACGIH 7th(2001):メチル ジブロピレン)されていることから、区分2Bとした。 呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: 250例を対象としたパッチテストにおいて感作性は認められなかった (DFGOT vol.6(1994),PATTY 4th(1994),ACGIH 7th(2001),SIDS2001):メチル ジブロピレン)との記述があるが、動物試験データはなく、区分外とするにはデータ不足と考え、分類できないとした。</p>

生殖細胞変異原性	in vitro試験で陰性のデータしかないため分類できない。
発がん性	データなし
生殖毒性	データ不足のために分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	ウサギを用いた経皮投与試験又はラットを用いた経口投与及び吸入曝露試験において麻酔作用が認められた(DFGOT vol.6(1994),PATTY 4th(1994),ACGIH 7th(2001),SIDS82001):メチル シプロピレンとの記述、ならびにヒト曝露例で気道刺激性が認められた(DFGOT vol.6(1994),PATTY 4th(1994),ACGIH 7th(2001),SIDS82001):メチル シプロピレンとの記述から、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
	呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	眠気及びめまいのおそれ
	ラット、ウサギ及びマウスを用いた吸入曝露、経口投与又は経皮投与試験において区分2のガイダンス値範囲を超える用量でも重大な毒性作用は認められなかった(DFGOT vol.6(1994),PATTY 4th(1994),ACGIH 7th(2001),SIDS(2001):メチル シプロピレン)との記述から、区分外とした。
吸引性呼吸器有害性	データなし
12. 環境影響情報	
水生環境急性有害性	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50=1919mg/L(SIDS 2001)から区分外とした。
水生環境慢性有害性	難水溶性でなく(水と混和)(SIDS 2001)、急性毒性が低いことから、区分外とした。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規 海上規制情報制	非危険物
航空規制情報	非危険物
UN No.	該当しない
国内規 陸上規制情報制	消防法の規定に従う。
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。
	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
	重量物を上積みしない。
15. 適用法令	
消防法	消防法第2条危険物、第4類
16. その他の情報	
参考文献	各データ毎に記載